



希望の塔

平成18年 7月26日

芽室町立芽室南小学校

学校だより 第 4号

発行・題字／竹内光男

編集／栗原賢次

言葉の暴力

芽室南小学校長 竹内光男



W杯サッカーもイタリアの優勝で幕を閉じたが、後味の悪さの残った大会でもあった。ジーコジャパンの意外な脆さ「期待だけが一人歩きし、日本人選手の脆弱さが目立ち、真の実力が見えなかった」以外にも不満は残った。それは決勝戦で見られた、頭突き一発退場騒ぎである。ジダン選手のあの行為は決して許されるべきものでもないし弁護する気にもなれないが、どうしてあそこでジダン選手が切れてしまったかの方に興味が残った。

延長戦後半で2人の衝突が起きるまで問題はなかったが、マテラッツィ選手のジダン選手に対する発言が問題だったようである。ジダン選手は「非常にひどい発言で繰り返して言うことはできない。言葉はしばしば行為に勝るもので、胸に突き刺さった。W杯決勝の場で、引退も迫っており、愉快的な言葉をかけられあんな行動をするわけではない。罪は彼にある」と説明した。

これに対し、マテラッツィ選手は「私は人種差別や宗教や政治がらみのことは一切言っていない。また、私は15歳の時に母を亡くしており、ジダン選手の母を侮辱することなどできない」と話していたようだが、「侮辱的な言葉をかけたことは認めるが、それは(試合中)よくあることで具体的に何を言ったかは覚えていない」とも語っている。

二人の選手の間で、売り言葉に買い言葉から端を発した争いのようだが、まるで子どもの喧嘩のようで頭を傾げてしまう。観客は、体と体、技と技のぶつかり合い、その闘志あふれるプレーや華麗なプレーに心動かされサッカーを楽しんでいるのであって、小汚いののしり合いを観ているのではない。しかし、マテラッツィ選手が言うように侮辱的な言葉をいつも試合の中で投げかけているのであれば、これほど観客を置き去りにした話はない。スポーツマンシップも地に落ちたもので、スポ

ーツ選手の純粹さやひたむきさを一度に否定してしまう暴言だとも思う。この選手の技は、一流だが心が伴わない三流以下の選手であり、この選手のプレーを観て一喜一憂していたのかと考えただけでも腹が立ってしまう。多くの選手は、純粹にサッカーを愛し魂と魂のぶつかり合いにしのごを削っているものと考えたいが、いかなものだろうか。

古来、日本人は、言葉には力があり魂が宿っていると考え言葉を大事にしていた。それ故、心揺さぶる言葉や美しい日本語を大事にし、平気で他人を誹謗中傷すべきではないものと肝に銘じて生活してきた。ところが、世界的な人気のサッカーゲームでは、暴言がまかり通り、何を言ってもよく勝ちさえすれば何でも通ってしまう態度に興ざめする思いであり、その中で世界一を決めるゲームが成立していることを考えると寂しさを感じる。

テレビからは毎日のように暴力に近い言葉が笑いの中で製造され垂れ流され、それが無防備な子どもたちの心の中にしみこんでいる。昔から、言葉の乱れは生活の乱れといわれ、生徒指導では言葉の乱れから正すことが大事だと教えられてきたが、最近は言葉が乱れてくるのではなく、乱れた言葉が常態化してきていることに危惧を覚える。

子どもの頃、口げんかで「お前の母ちゃん出ベソ」と悔しさの余り相手に言っしまい、後からこっぴどく叱られ、言っていいことと悪いことのけじめをつける大切さを体験の中から学んだものだ。「死ね」とか「殺すぞ」といった言葉が飛び交う日常茶飯事。病巣は深く、気長に一つ一つ教えて行く必要があるようだ。相手を敬う気持ちで発言しなければならないことや、言葉を受けた相手の気持ちや、そんな言葉を使っていると自分の心が荒んでいくことを。

いよいよ夏休みが始まりますが、ご家庭でも正しい言葉づかいについて話し合ってみてはいかがでしょうか。兄弟の会話の中で、テレビ番組の中で、使われている言葉をご家族で考えるのも、コミュニケーション能力を育てる上でもご家庭の教育力を高める上でも必要なことと考えます。爽やかな挨拶「おはようございます」で一日が始まり、「さようなら」や「おやすみ」で終えられる笑顔に包まれた生活になればいいなあと思っています。

保護者、地域の皆様には、1学期の間、子どもたちが大きな事件や事故に巻き込まれず、毎日が笑顔の中で過ごせたことに感謝申し上げます。



開校20周年に向けて ～協賛会設立～

本年3月のPTA総会において、平成19年度に開校20周年記念行事を行うことが決議されましたが、去る7月18日に「開校20周年記念協賛会」の設立総会が行われ、会則並びに予算案が承認され、役員が選出されました。役員には、協賛会長に栗野栄作さん、副会長に菊地英樹さん、会計に河瀬政弘さん、監事に松久正人さん、辻春彦さん、矢野登美雄さんが就任しました。また、役員選出後直ちに栗野協賛会長から顧問や各専門部の部長並びに部員が委嘱され、20周年に向けての組織体制が整いました。協賛会の各部部員には本年度5年生以下のお子さんを持つ保護者の方全員が委嘱されました。

PTA会員の皆様には、今年から来年にかけて何かとお手数ご足労をお掛けいたしますが、20周年の節目に巡り会えた事を幸せに感じ、子どもたちの思い出になる事業にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



7月3日(月)に本年度2回目の地域参観日を行いました。当日は、48名の保護者の方がお越しになり、4月からの子どもの成長ぶりをご覧いただきました。

全体懇談では、学校長より1学期間の子どもの様子についてお話をさせていただきました。

学級懇談では、それぞれの学級で有意義なお話し合いが持たれたと聞いております。

ご参観いただいた皆様、ありがとうございました。次回の地域参観日は、9月29日(金)です。

研み
・仲な
・身み
の夏

6月末から学校プールがオープンしていますが、今年の夏は涼しく、子どもたちの歓声もなかなか聞こえてきません。夏休みの間くらいは、「水の中が気持ちいい」氣候が続いてほしいものです。

ご家庭の皆様にはプールまでの送り迎えをお願いすることになりますが、子どもたちの体づくりのためにもよろしくお願いいたします。また、プールの「きまり」については学校で指導しておりますが、ご家庭でもお話しくださいよう重ねてお願いいたします。

子どもたちの安全を守るために ～不審者通報電話のお知らせ～



1学期の間に本町においても不審者の出没が相次ぎ、各学校や教育関係者のみによる対応について見直しが急がれていましたが、この度、「第3回芽室町登下校時の児童安全確保対策連絡協議会幹事会」が開かれ、町全体を網羅する安全確保対策の体制が確立されました。町広報誌「スマイル」でもお知らせがあった通り、今後、町内で不審者による事件や被害が発生した場合、その届け出は全て町役場総務課地域安全係で

受理し、そこから警察などの関係機関に通報し、教育委員会・各学校を経て、各ご家庭へお知らせするという形になります。

今後、不審者を目撃したり、お子さんから情報を聞いた場合は、

くなんにおうじる

役場総務課地域安全係 62-9720 (直通電話)
又は 62-2611 (代表電話)

までご連絡いただきますようお願いいたします。

8月の主な行事

- 3日(木) 子どもトーク
- 15日(火) 学校プール閉鎖(～19日)
- 21日(月) 第2学期終業式
- 22日(火) 夏休み作品展(～29日) 児童会
- 23日(水) クラブ
- 24日(木) 6年生読み聞かせ
- 26日(土) 町P連視察研修(～27日)
- 28日(月) 学級経営交流会
- 29日(水) 二計測 児童会
- 31日(木) 1年生読み聞かせ 演劇鑑賞教室

